

大阪クリニカル・ベイエリア計画

(私案・骨子案)

- 健診から医療・介護、緩和ケアまで -
生から死まで完結するエリア

長野 聖

2009.10.7.

1. 計画のねらい

- ・日本の基幹産業の将来像をどのように描くか？
- ・今後の日本の産業を、大阪がリードするために為すべきことは？
- ・卵を産む「にわとり」を、何に求めるのか？
- ・「産業」の観点で、医療・介護を捉える発想が必要では？
- ・日本初の「健診から医療・介護、緩和ケアまで」、臨床機能 (clinical function) が集積するエリア

2. 基本概念

日本の医療水準は世界でトップレベルにある。とりわけ大阪は大阪大学、国立循環器病センター、成人病センターなどをはじめとする、国内でも有数の特徴ある医療機関を有する。

夢洲・咲洲地区において

臨床を主軸とした施設、および機能の展開

・健診、医療、介護サービス、および緩和ケア

府民へ、より充実したサービスを提供
外国人向けに「販売」

・関西国際空港を窓口とした**メディカル・ツーリズム(医療観光)**の起点となるエリアを形成する

関空の活性化に寄与する

3. 具体的内容

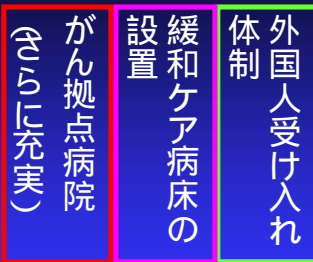
咲洲地区に

- ・府立成人病センターを移転
- ・附属の入所施設を有する介護系大学の設置
- ・医療、介護を含めた臨床系の大学、研究施設の設置

咲洲・夢洲地区に

- ・医療機器(診断機器、治療機器)、および介護機器の開発から販売に資する企業の設置

1. 成人病センターを咲洲地区に移転



アジアの拠点病院になりうるポテンシャル

緩和ケア病床の設置

- ・量的に不足している緩和ケア施設のニーズに応える

1年のがんで死亡する患者約34万人に対して、緩和ケア病床を使える患者は約2万人

外国人受け入れ体制の整備

- ・国際病院評価機構(JCI: Joint Commission International)による認証を受ける

国内の認証施設は千葉・亀田総合病院のみ。シンガポール15施設、中国6施設、台湾6施設。

土地面積の相対イメージ



2. 附属の入所施設を有する介護系大学の設置

- ・国内には大学附属の入所施設を有する介護系大学が存在しない
- ・学術的な裏付けのある質の高い介護技術を習得することで、「介護」のトップモデルを構築、介護のあり方を大幅に改善する
- ・介護職の技術の向上
社会的地位の向上 給与水準の向上

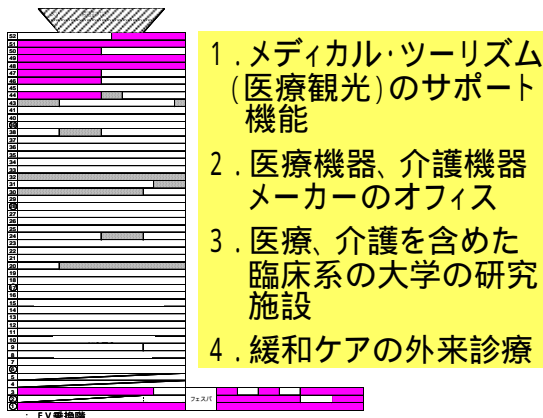
3. 医療機器(診断機器、治療機器) 介護機器の開発から販売に資する 企業の設置

- ・日本は治療機器の約60%が輸入依存
- ・医療機器産業の市場規模は、世界全体で約20兆円(2005年)
- ・年間成長率4~6%
- ・日本の市場規模は約2.3兆円(米国、欧州に次ぐ世界3位の規模)

4. WTCが担う機能

1. メディカル・ツーリズム(医療観光)に関する機能

- 1) 健康診査、人間ドッグなど「健康」に関するサービスを提供するクリニック
- 2) 通訳、語学系の企業オフィス
- 3) 医療観光販促の企業オフィス
宿泊施設と連携した医療観光のコンテンツ販売に寄与できる。
- 4) 府下の医療・介護施設を外国からの見学者向けに、見学料を徴収する新たな事業の展開



2. 医療機器(診断機器、治療機器)、介護機器メーカーのオフィス
3. 医療、介護を含めた臨床系の大学の研究施設
4. 緩和ケアの外来診療

成人病センターの緩和ケア病床(ホスピス)と連携を図り、ガン治療と緩和ケアの切れ目のない連携が可能

5. メリットと課題

メリット(その1)

- ・国内・国外からの「集客」により、収益すなわち府税収入の増加に貢献できる可能性がある
- ・関西国際空港の活用促進に大きく寄与できる
- ・公的保険制度と切り離れたサービスを展開することで、新たな成長「産業」として期待できる
- ・雇用の拡大

メリット(その2)

成人病センター

- ・アジアの拠点病院になりうるポテンシャル
- ・医師、その他の医療従事者の集積
- ・咲洲を起点に、泉州につながる医療圏の中核機能を担う

課題

21

- ・外国語のできるスタッフの育成
- ・医療観光として、積極的に海外から「集客」している実績は少ない
聖路加国際病院、りんくう総合医療センターなど、国際外来として外国人の診療を受け入れている施設は既に存在
(参考 / 聖路加国際病院 国際外来: 初診 45分 26,250円)
- ・神戸における「医療産業都市」との差別化、および競合